

薬品による傷害の処置法は知っていますか？

皮膚に対する処置

速やかに大量の清潔な冷水で15分以上洗浄すること。濃硫酸等水によって発熱するのは、はじめに乾いた布、濾紙、ティッシュペーパー等でできるだけ早くその大部分を拭き取った後、大量の水で一挙に洗い流すようにする。

酸やアルカリは、皮膚のひだや毛髪の間に残ることが多いので、酸なら弱アルカリの水溶液、アルカリなら2～3%の酢酸やレモン汁で中和しておく。

石灰酸はアルコールで洗った後、弱アルカリで中和し、皮膚の潰瘍の処置は、皮膚科の医師に依頼した方がよい。

眼に対する処置

素早く大量の水で洗う。特にアルカリは眼球を腐食するので、よく水洗いしてすぐ医師にかかるようにする。

洗眼には、噴水式の洗眼装置がよいが、ない場合は清潔な水をオーバーフローさせた洗面器に顔を反復して入れ、はじめは目を閉じたまま後に眼を水中で開閉して洗浄する。蛇口につないだゴム管からの緩やかな水流を用いてもよい。しかし、噴水が強いと顔についている酸等を圧入したり、腐食された皮膚表面をはぎとることになるので注意すること。

中和剤は適用しない。洗眼を終えたら厚めのガーゼ湿布をあて、眼帯等で固定し、なるべく早く眼科医の処置をうけること。

呼吸器に対する処置

患者を迅速に新鮮な空気中に搬出する。汚染衣服は取り除き皮膚は洗浄し、保温安静にする。重症の場合は、酸素吸入や人工呼吸が必要である。酸ミスト、塩素ガス等の濃厚暴露では、気管粘膜ばかりでなく肺胞も損傷し、気管支炎、肺炎、肺水腫（血しょうが肺に進出）を引き起こし、呼吸困難に陥ることとなる。ショックを起こすこともあるので医師の治療が必要である。

誤飲に対する処置

大量の水または牛乳を飲ませ、嘔吐させる方法もあるが、強酸、強アルカリ、有機溶剤、石油製品、揮発性物質の誤飲では吐かせてはいけない。酸、アルカリに対しては牛乳、生卵による消化管内pHの正常化を図ることも有効である。胃、食道の損傷は数分で死を招くことがあるので、処置は寸刻を争う場合がある。意識がない時は、早急に救急車を呼ぶ必要がある。保温、安静にし、ショックや呼吸麻痺に注意すること。

使用前に使用薬品の SDS (Safety Data Sheet) を確認しておくこと。